

「大正初期の土田麦僊における風景画の成立と推移について —— 小野竹喬との関係と類似性 ——」の一部訂正について

横山 秀樹

新潟県立近代美術館『'95研究紀要』上において拙稿「大正初期の土田麦僊における風景画の成立と推移について—— 小野竹喬との関係と類似性 ——」を発表したが、その後文中で論考した2作品の年代設定と真贋について、東京国立近代美術館次長の内山武夫氏から次のご指摘をいただいた。また、新たに作品の所在等が明らかになったものがあり、ここで訂正と追加をしたい。

年代設定の訂正作品は京都市美術館所蔵の《榻》(図1)である。拙稿では使用されている落款の形から大正4年に制作年代を比定したが、このことについて内山氏は「京都新聞社の記者であった加藤一雄氏が所蔵者の野村一志氏から聞いた話」として、次のように教示された。

1. 作品は明治40年頃に麦僊から描いてもらったもの
2. 落款は野村氏が大正時代になってから麦僊に書き入れてもらったもの

また、内山氏の意見として、描かれている線から見て明治40年頃のものであるとの指摘もいただいた。

真贋の訂正作品は、大正4年作とした《伊豆の風景》(図2)である。この作品は、画面右下の位置に描かれた丸の中に「麦」と書かれた手書き落款が見られ、東京セントラル美術館で昭和48年に開催された「土田麦僊展」に出品されたものである。内山氏はこの作品について、小野竹喬氏から聞いた話として次のように教示された。

1. 《伊豆の風景》は麦僊の制作に拠るものでなく、小野竹喬氏の作品である。
2. 小野氏のもとに、画商から麦僊の作品として箱書を書いてくれるように持ち込まれたが、竹喬氏本人が自分が描いた作品であると、箱書きをせずに画商に戻した。
3. 手書き落款であり、明らかに後になって署名したもので

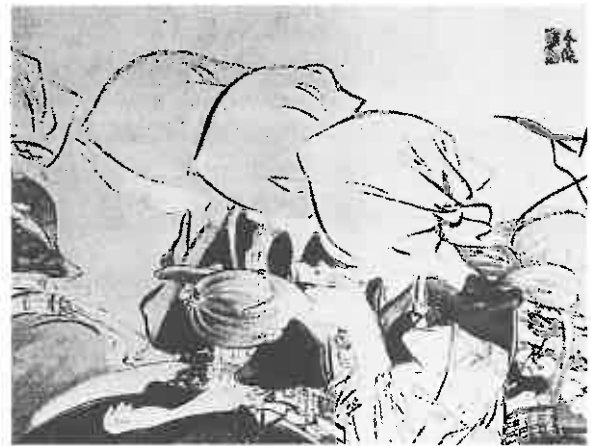


図1 《榻》



図2 《伊豆の風景》



図3 《伊豆の海》

ある。

以上の2点が内山氏からご教示いただいた内容であり、
ここでお詫びして訂正したい。

また、大正6年作の《伊豆の海》(図3)は、現在大阪
市立近代美術館(仮称)建設準備室の所蔵になっていると
のご連絡を同館の橋爪節也氏から受けたので所蔵を明記した
い。

この稿の発表後に新たに2点の作品の所在が確認でき
たので、紹介する。

《熊野の冬》(図4)1917年頃 茨城県立近代美術館所
蔵

《熊野の山》(図5)1918年 山種美術館所蔵

いずれも熊野に旅行をした際のスケッチをもとに描いたもの
と考えられる。

《熊野の冬》は茨城県立近代美術館学芸課長の金原宏行
氏から、平成7年度の新収蔵品とのご連絡を受けたものであ
る。なお、制作年代は茨城県立近代美術館の比定である。



図4 《熊野の冬》



図5 《熊野の山》